

職域部門③ 国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所
 《我が国最北の地方港湾において厳しい気象・海象条件の中、低潮線の巡視に尽力》

名称・所在地・代表者・沿革等	組織の概要等
<p>国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所</p> <p>北海道稚内市末広 4 丁目 5 番33号</p> <p>稚内港湾事務所長 <small>とみさわ しんいち</small> 富澤 進一 (事務所長以下15名)</p> <p>昭和25. 6 北海道開発庁設置 昭和26. 7 北海道開発庁北海道開発局設置 昭和26. 12 稚内港修築事業所設置 昭和47. 5 稚内港湾建設事務所に名称変更 平成13. 1 国土交通省北海道開発局設置 平成16. 4 稚内港湾事務所に名称変更</p>	<p>国土交通省は、国土の総合的かつ体系的な利用、開発及び保全、そのための社会資本の統合的な整備、交通政策の推進、気象業務の発展並びに海上の安全及び治安の確保などを行っている。</p> <p>北海道開発局は、昭和26年7月に北海道開発庁の地方支分部局として設置され、北海道内を所管区域として、河川、道路、港湾、農業、営繕事業等を担当してきた。更に平成13年(2001)1月の国土交通省設置により、各種自治体実施の事業についての認可・助成等を通じて社会資本整備等に対する連携を深めている。</p> <p>稚内港湾事務所は北海道開発局の下部機関として物流、人流等の円滑化、活性化により日本の最北に位置する宗谷地方の人々の暮らしや産業を支えるため6港湾(稚内港、宗谷港、枝幸港、鴛泊港、杓形港、香深港)、1空港(稚内空港)、4漁港(東浦漁港、抜海漁港、仙法志漁港、礼文西漁港)の計11港の施設整備や保安・保全等に関する業務を実施している。</p>

顕彰理由

宗谷海峡を隔ててロシア・サハリンと対峙する位置にある我が国最北の地方港湾・宗谷港は、その港湾区域内に3箇所の低潮線保全区域を有している。宗谷港周辺は冬期に氷点下の気温、強風、吹雪や波浪等の厳しい自然環境に見舞われるが、稚内港湾事務所は一年を通じて排他的経済水域等の基礎となる低潮線の人為的損壊行為や自然浸食による形状変化を海上及び陸上から巡視し、排他的経済水域の確保に努めている。

以上、厳しい自然環境下にある国境に面した低潮線保全に関わる職務を地道であるが着実に執行し、国民の共有財産である排他的経済水域の確保に寄与している。

理由詳細

1 職務の内容・重要性

宗谷港は宗谷海峡を隔ててロシア・サハリンと対峙する位置にある我が国最北の地方港湾であるが、稚内港湾事務所は宗谷港港湾区域内に存在する3箇所の低潮線保全区域について港湾業務艇による海上巡視を行うなど、平成23年度から予備調査も含めて7年間、低潮線保全に関する職務に従事している。

我が国は四方を海に囲まれた海洋国家であり、国土面積が約38万km²（世界第61位）であるのに対して、領海と排他的経済水域を合わせた管轄水域は、約448万km²（世界第6位）と広く、国土面積の約12倍となっている。

国土の狭い我が国にとって、排他的経済水域等は貴重な海洋エネルギー・鉱物資源の開発や水産資源の利用を排他的に行える貴重な場となっている。

低潮線は排他的経済水域等の幅を測定するための基線であることから、排他的経済水域等を確実に確保していくためには低潮線の保全が極めて重要となる。

2 職務の特殊性・勤務環境

宗谷港港湾区域内にある低潮線保全区域の人為的損壊行為や自然浸食による形状変化に関する巡視に当たっては、稚内港湾事務所所有の港湾業務艇を宗谷港から約30km離れた稚内港から回航して年4回（6、9、12、3月）海上巡視を実施し、近接位置から低潮線の状況確認を行っているほか、高波浪発生時においては陸上からの巡視を行い、低潮線の保全に努めている。

宗谷港周辺は冬期には日平均気温が氷点下となる上、年間を通して風が強いが、12月の日平均風速は9m/sを超えるなど冬期において特に風が強まる傾向にある。一般的に風速が1m/s速まると体感温度は1℃低下すると言われており、特に冬期間は厳しい自然環境下において稚内港湾事務所職員は低潮線の巡視に努めている。また、低温や強風に加えて吹雪や波浪が伴う気象・海象条件下においては、更に厳しい作業環境となり、肉体的にも精神的にも苦勞が伴う職務となっている。

3 公務の信頼の確保・向上

上記のような肉体的・精神的に厳しい勤務環境の中で、稚内港湾事務所職員は国境に近接した位置にある低潮線の保全に関わる職務を地道であるが着実に執行し、我が国国民の共通の財産である排他的経済水域等の確保に貢献しており、公務の信頼の確保と向上に寄与している。

